令和元年度　東海農政局長賞の概要

農事組合法人 飛雪の滝百姓塾（三重県南牟婁郡紀宝町浅里）

～ 被災を乗り越えた地区の力でむらづくり ～

1　むらづくりの動機、背景、経緯

三重県の最南端に位置する紀宝町浅里地区では、古くから河川での漁労、木材の運搬、木炭の製造・運搬、水田農業を中心とした生活を営んでいた。

しかし、時代と共に地区の人口は減少し、高齢化率も 65%を超えるなど急速に高齢化が進んでおり、このままでは地域の活性化の低下により、地区としての存続も危ぶまれる状況であった。

そのような中、「皆で一体となって営農を推進し、この地域を活発にしていきたい」と思う者たちが集い、平成 17 年に任意団体である「飛雪の滝百姓塾」を設立、以後百姓塾が中心となり浅里地区の活性化のための取組が開始された。

平成 23 年 9 月の紀伊半島大水害により、当地区は甚大な被害を受けたが、翌年には農地の復旧に努め、また、被災直後からボランティアを始めとした、多くの方々の支援を受け復旧・復興に尽力した。

そして平成 26 年には集落営農での活動を増加させ、地域をより活性化するため、法人化した。

2　むらづくりの内容

⑴ 獣害対策の取組

長年獣害に苦しめられてきた浅里地区では、漁協から不要となった漁網を譲り受け、シカ侵入防止ネットとして地区住民と共同で設置に取り組み、また平成 26 年には交付金を活用して集落を取り囲む恒久柵を設置し、その柵の維持管理を継続することにより、獣害が大幅に低減されている。

導入した恒久柵

⑵ 生産性向上の取組

水稲栽培において、新品種「三重 23 号」を導入、品質を向上させブランド化するとともに、それを用いた郷土料理を販売することで、地区の活性化及び食文化を PR している。

また、共同施設の利用率向上のため、チラシ配布やアンケート調査を行うなどの活動を続けた結果、設立当初に比べ、平成 30 年度では利用率が約８倍まで上昇している。

⑶ 不作付地解消の取組

百姓塾を中心として野菜や果樹栽培にも取り組み、県が策定した「地域活性化プラン」の目標の一つである「不作付地の解消」（平成 25 年度の不作付地 1.5ha から平成 28 年度には 0.5ha 以下へ）を平成 28 年度で 0.5ha とし、目標を達成させている。

⑷ 後継者育成・確保の取組

百姓塾では、浅里地区内の廃校となった施設を活用し、地域の病院職員や地元の大学生と連携して、災害時の医療対応や自然・里山保全について学ぶための「おもしろ大学」を開校し、若い人たちと関わる機会を積極的に取り入れている。また SNS を活用し活動内容を発信し、「体験、食、泊」をキーワードとした滞在交流モデル地区の PR を実施している。

⑸ 都市住民との交流の取組

紀伊半島大水害の災害ボランティアとして浅里地区で活動したことがきっかけで名古屋市の企業と「農村活性化の取り組みに関する協定書」を締結し、企業の CSR 活動として、田植え、稲刈り等のボランティア活動が行われるなど、都市と農村との交流活動が積極的に行われている。

企業とのＣＳＲ活動

⑹ 女性の社会参画の取組

郷土料理を用いて地域活性化を図るイベント「なれ寿しまつり」では、浅里地区の女性が中心となって行われ、毎年 1,000 人以上の集客を達成している。

3　今後の展開方向

地域を挙げた組織である飛雪の滝百姓塾が中心となって、地域の活性化に貢献している。

また、被災という逆境から復興した地域の団結力の強さと、地域資源を活用した誘客による地域の活性化など、今後も取組の継続が期待できる。